

令和3年度 南砺市スポーツ推進審議会 議事録

1 開会及び閉会の日時

令和4年2月25日（金）午前10時00分～午前11時30分

2 場所

南砺市福光福祉会館 3階ホール

3 出席委員

- ・才川 昌一（会長）
- ・赤池 伸彦（副会長）
- ・永山 恵
- ・井口 邦雄
- ・北島 一郎
- ・窪 辰夫
- ・前田 佳弘
- ・河原 洋子
- ・川合 留里
- ・廣原 弘子
- ・水戸 明美
- ・坂東あすか

4 審議会出席者

- ・教育委員会教育長 松本 謙一
- ・教育委員会教育部長 村上 紀道
- ・教育総務課長 氏家 智伸
- ・教育総務課主幹 川口 雅也
- ・生涯学習スポーツ課長 鶴野 幸男
- ・生涯学習スポーツ課主幹 池田 貴志
- ・生涯学習スポーツ課副主幹 西田 誠
- ・生涯学習スポーツ課主事 鶴山 大輔
- ・生涯学習スポーツ課主事 横山 由記

5 傍聴者

なし

6 審議会の要旨

1 開会

生涯学習スポーツ課長が開会を宣言した。

2 委員の任命

3 開会挨拶

（松本教育長）

本日はお忙しい中お集まりいただきありがとうございます。また、スポーツ推進審議会の委員になっていただいたことをお礼申し上げます。オミクロン株等いろいろと相まってスポーツがなかなかできない状況ではありますが、南砺市ではスポーツ団体、それから学校・保育園それぞれで、できることは何か、少しでも子供たちに、そして大人、老人に至るまでどうやって健康を保持していくかということで、工夫していただいていることを本当に感謝申し上げます。今日は、スポーツ推進審議会ということで、この一年間やってきたこと等について報告させていただきます。みなさんからご意見をいただき、今後の教育行政に生かしていきたいと思っております。だんだん子供たちの人口が減っていきませんが、南砺市が本当に豊かに暮らしていけるようにするためには、スポーツをしたり、文化や芸術それぞれなにか楽しみを持って、生きがいを持って生きていける南砺市を市長のもとで目指したいと思

っています。皆さんの忌憚のない意見をよろしく願いいたします。

4 会長及び副会長の互選

会長に才川昌一氏、副会長に赤池伸彦氏が選出された。

5 会長挨拶

(才川会長)

今ほどは皆様方からの温かいご支持をいただきまして、大変光栄なことだと思っています。冒頭で教育長もおっしゃられましたように、オミクロン株の影響でスポーツ関係の事業もなかなかできない、中止することが多くなっており、市民の皆さんの体力向上というものがどのようになっていくのかということが大きく心配なことではないかなと思います。令和2年に策定いたしましたスポーツ推進計画の進捗につきましても懸念するところになってくるのではないかなと思っています。早くオミクロン株が終息することを期待するとともに、この委員会において市民の皆さんの体力の向上等についてしっかりとご協議をいただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

規則により才川昌一会長が議長を務める。

6 議事事項

(1) 令和2年度スポーツ関係事業報告について

事務局から説明した。

(2) 令和3年度スポーツ関係事業報告について

事務局から説明した。

(3) 南砺市スポーツ推進計画の進捗状況と課題について

事務局から説明した。

●質疑応答

○委員 コロナ禍ということもあり、市民がスポーツに参加する機会が本当に少なくなっていると思う。そのような中で、スポーツクラブへの加入が少なくなっているということで、スポーツクラブに大きく期待をしたいと思う。その他にも、いろんな事業を令和4年度に向けて実施していただくことも必要ではないか。特にスポーツ推進計画の基本施策2の市民の運動機会の充実というところでの具体的な施策が、令和2年度、3年度はなかなかできなかったかもしれないが必要だと思う。例えば、健康志向が高まる中、誰でも気軽に取り組める「ウォーキング」を推進するようなこと、それからスポーツと観光を組み合わせた「スポーツツーリズム」を取り入れていくような施策を、どのタイミングで、どのように推進していくのかということが課題になる。そのことについて

の対応はどのようなことを考えておられるのか。

○事 務 局 2年度、3年度はコロナ禍の関係で、スポーツをする機会が少なくなっている。令和4年度以降については、チャレンジデー等を令和3年度以降不参加にした関係で、特に働き盛りの方々のスポーツをする機会を増やすため、企業等に向けた支援を考えている。また、スポーツクラブへは、スポーツ教室の支援や、スポーツクラブ会員の増加をはかる支援等を考えている。ただ、先ほど会長も言われた、ウォーキングやスポーツコミッション等については、来年度から考えていきたいと思っている。特にスポーツコミッションについては、3月に呉西圏域の講演会もあるため、それも参考にし、いろいろと考えて進めていく。

○委 員 令和11年度までの長期的な計画を進めていく上で、3年度でやらなければならない目標ももちろんあるが、長期的に計画を作っていくことが必要だと思う。単発的に今年はこれ、今年はこれ、ということももちろん大事だと思うが、長期的にどのようにしていくのかという方向性もどこかで考えていただき、進めていくことが必要だと思う。

○事 務 局 長期的にも考えていきたい。また、スポーツ推進審議会等も年に1回以上は開催させていただきたいと思っているので、その中でご意見をいただきながら進めていきたい。

○委 員 週1回以上スポーツを行っている市民の割合は、令和3年度増えているが、それに対して、スポーツクラブへの加入率が低下しているのは、少子高齢化もあると思う。スポーツクラブへの加入率が低下していることに対して、スポーツクラブに求めることや、加入率低下の原因について、どのように感じて考えているのか教えていただきたい。

○事 務 局 南砺市のスポーツ実施率については、少しずつではあるが数字的には向上してきている。ただ、おっしゃる通りスポーツクラブの会員数が、減少傾向にある。令和元年度から2年度にかけて、さらに一段と低くなっているという実態もある。クラブ会員数が減少する反面、スポーツ実施率が上がってきているというところで、まずコロナの影響として考えられるのは、一カ所に集まって大勢で何かスポーツをするということに対して感染のリスクがあるのではないかと思われる。例えば家の周りを歩く等、そういったところで運動をされることでスポーツの実施率は上がり、クラブへの入会は、コロナの間は避けようという意識がはたらくことで、クラブ会員数は減少しているのではないかと思う。スポーツクラブの会員数が減っていくことについては、クラブの運営自体も厳しくなり、クラブとしてやっていきたい事業がだんだんと縮小する危険性も

ある。市としては、クラブは、スポーツの地域の拠点として、しっかりと事業を進めていただいて、市民の健康・体力の向上の要として機能していただきたいと思っているので、4年度からの新規事業等で支援をしていきたいと考えている。

○委員 現在、高齢者の人を対象に公民館で体操教室が続けている。今はトレーニングが高齢者の方たちの間ですごく浸透していて、「何か運動せんなん」ということで教室に来ていただいている。この前はアイウェーブさんに指導を頼んで、楽しいゲームみたいにやっていただいたら好評だった。そのときは、教え合いや、励まし合いがあったりして、すごく良い雰囲気、運動っていいなと改めて感じた。そのようなことを、1年中続ければ高齢者の方たちはちょっと元気になると思う。老人割引っていうのはないのか。考えていただけると嬉しい。

○事務局 現在、地域包括ケア部の事業で、貯筋体操等、市の支援を受けながら高齢者を対象とした教室をやっているところもある。また、誰でも気軽にスポーツ教室に行けるように、スポーツ教室開催の支援を来年度からスポーツクラブと連携し行うことを考えている。スポーツクラブの会員の募集についても、新規に入会される方々に対して、スポーツクラブの会費を補助する支援も考えている。スポーツクラブを離れるということは運動の機会が少なくなる原因にもなるので、スポーツクラブや、体育協会、スポーツ推進委員とも連携して進めていきたい。

○委員 高齢者の方は、体育館は敷居が高いと言われるので、高齢者の方でも行けるような、レクリエーションがあったり、楽しい学び合いがあったりすると思う。また、トレーニング室に誰かが常駐していて、高齢者の方が来たら、トレーニングの仕方を教えてくれるような環境があればいいと思う。

○事務局 体育館はなかなか高齢者の方にとって行きにくいというご意見ですが、そうなのかなと思う。教育委員会だけではなく、地域包括ケア部とも連絡を取りながら一人でも多くの人に参加していただけるような環境を作っていきたい。また、先ほどご意見があった、スポーツクラブに期待することとして、この資料の19ページにも考察で書いているが、令和4年度から社会体育施設を地域スポーツクラブの4団体が共同体で一括管理していただく。今までも取り組んでいただいているが、今後も施設の相互利用や、イベントの共同開催というところで、働き盛りも含めて、自分はスポーツクラブに入るほどではないなと思っているような方のハードルを低くしていただきたい。そのような事業を展開していただける

よう、教育委員会としてもいくつかの事業で支援をしていきたいと思っている。

○委員 現在、ふくのスポーツクラブの会員になっているが、もし4団体で一括管理される場合、全部のクラブの会費は一緒になるのか。会費制の部分と参加するときの参加費というようなシステムを取っているところが結構あるが、そういったことに関しても今後検討されていくのか、市から指導されていくのか。

○事務局 今はまだ検討中である。スポーツクラブと話し合いをしていきたいと思っている。

○委員 どこかでいいイベントがあり、そのイベントに参加したいときに、隔たりがあったり、また別のクラブに入ったりしなければいけないということがあるので、そういった点の改善になればいいと思う。

○委員 基本施策1の子どもたちの健全育成について、子供たちの学年によって毎年傾向は違うと思うが、体力調査報告書を見させていただくと、相対的に南砺市の子どもは反復跳びや、20mシャトルラン等はどの学年も全国平均よりも高い数字になっている。しかしながら、上体起こしや柔軟性はどの学年も低いように思われる。南砺市の子どもの傾向はそういったところにあるのかなと思う。それを解決する方法を考えていかないと、何かあったときにケガをしやすくなるのではないかという懸念がある。その学年、その学年で特色はあるかもしれないが、南砺市の全体的な傾向は読み取れると思うので、そこへ向けた対応をしっかりとさせていただくことが必要ではないかなと思う。学校の先生もおられるので、ご協力いただきたいと思います。

○事務局 南砺市の子どもは柔軟性等の数字があまり良くないということについての対策は、教育センターの体力づくり委員会の中で検討している。50m走で記録が速くなったのも、いろいろと手引き等を作成して各学校の授業等で生かしてもらった結果である。柔軟性等についても、体力づくり委員会でご検討いただき、手引き等を作成していただいて、各学校の授業に生かしていただけるように進めていただきたいと思います。

- (4) 南砺市スポーツ及び文化芸能大会参加激励金等交付要綱の一部改正について事務局から説明した。
- (5) 令和4年度からの体育施設の指定管理の一本化について事務局から説明した。
- (6) 令和4年度新規事業について

事務局から説明した。

●質疑応答

○委員 スポーツクラブ指導力向上の支援は、資格取得への補助金ということだが、旅費等全て出るという形になるのか、授業参加料だけなのか。また、資格を取ってもらうとなると、各クラブの中で資格者が増えることになるが、継続的にとれる資格は個人負担にするのか、市で見ていくのか。資格を取ってもらうことは大変素晴らしいと思う。ぜひやっていただきたい。資格取得後、その人をどう育てていくかも大事だと思うので、検討をしていっていただきたいと思う。

○事務局 スポーツクラブ指導力向上支援事業については、補助金1／2補助でスポーツクラブにも協力していただきながら、旅費と講習会へ行くための補助と考えている。指導者がどんどん育つことで、継続的に初心者の方等のスポーツの実施が増えていけば良いと思う。

○事務局 この事業の予算100万円の歳出根拠は、20万円×5人分である。1／2上限補助になるので、旅費と交通費で40万円が必要であれば、その1／2を市が助成するというイメージで制度設計をしている。2年度目以降の資格の継続等に経費がかかることについては、検討はさせていただくが、個人の資格に対して行政から支援を続けるというのは、慎重に考えなければならない部分もある。どのような支援ができるのか、どこまでできるのかということは検討させていただきたい。

(7) 南砺市立中学校部活動のあり方検討について

事務局から説明した。

●質疑応答

○委員 中学校の今の現状について少しお話しさせていただくと、子どもの数が大変減少していて、チームを組めない部活がだんだん出てきている。1年生が入ってきて初心者の子が試合に出なくてはならない等、人数が足りないからという状況がいろんな学校で出てきている。部を絞らなければいけないが、学校の中で部を絞るのは、今いる子どもの保護者が反対される。そうすると、結局学年に部員が0人になって、次の年には募集停止になるかなと思ったら、その次の年は先輩がいないので、そこを目がけてたくさんの子が入ってきて、入る年、入らない年の連続になり、細々とやっと試合に出られるチームばかりずっと続いていくというようなことになる。ある程度、充実した活動をするためには最低限の子どもたちの数が整った方が良い。また、試合に出ても勝つ喜びや充実感を味わうことができると思うので、この取り組みは学校としては本当に有難い。学校ではなかなかできないことを、細かなスケジュールを立てて何

回も会合をしていただいていることに本当に感謝したい。現在も外部指導者やエキスパートの方に来ていただいて、学校の教員も本当に助かっている、こういったようになっていけば中学校としては有難いなと思っている。先日、新聞に高岡市の南星中学校の女の子が南砺市のこの取り組みは本当に素晴らしい、よくやっていると書いておられたが、中学3年生の女の子がそんなことを言ってくれていることが本当に有難いなと思って記事を読んでいた。なかなかハードルが高く、反対の意見等も出てくると思うが、こうやって進めていただいていることに対して有難いなと思っている。

○委員 特認校制度の導入について、部活が無くなることもあるかもしれないということで、他の学校に行ってもいいよということなのだと思う。学習的な考え方としても、特色ある学校をそれぞれ作っていただくと聞いている。部活だけではなく、学習的なことも含めた特認校になっていくのだろうと期待をしている。しかしながら、今まで行っていた学校から違う学校に行くことは、子どもにとって重要なことになるのではないかなと思う。新たに違う学校に飛び込んでいくことは、いろいろと懸念しなければならないことが出てくるのではないかと心配している。他の部活をやりたいが、友達がいなくなるようなところに自分だけが飛び込むことへの不安を持っておられる子どもも多いと思う。そうなると、なかなか特認校制度の枠を広げたとしても、よっぽどのことがないと行かないのではないかなと思う。日ごろから学校間同士で生徒の交流をする等、方向づくりをしていただかないと、制度は作ったけれどもそこに向けて進んでいくことが難しいのではないかなと思う。できれば、部活においてでも、チームになって一緒にフィールドで活動するというようなこと、それから普段の学校間同士の生徒の交流も南砺市一円として必要だと思う。

○教育長 言われた通りだと思う。特認校については、大きく分けると3つあると思っている。1つ目が特色の面、2つ目は部活動の面、3つ目はある程度規模が小さい学校が増えると、生徒指導的に1度仲間と上手くいかないとそれきり学校に来なくなる子どももいるという面である。その子たちが新しい新天地で、また新しい仲間と過ごすことも、子どもたちの成長にとって必要なことだと思う。大きい学校ではクラス替えがあるが、クラス替えが無い学校もあるので、そのような形で進めたい。今言われたように、なかなか他の学校に行きにくいということは、当然だと思っているが、自分の地域の学校の小中一貫教育でいくことが基本だと思っ

ている。部活動で他の学校になかなか行きにくいということで、例えば、スポーツ少年団との連携を取りながら、スポーツ少年団の段階でいろんなスポーツ少年団が交流できるように進めていただいたり、小学校と協力して、子どもたちがどんどんいろんなスポーツ少年団にチャレンジしてくれるような環境を作ったり、共に交流してくれるような場を設けながら、子どもたちが中学校で部活を決めるときに一回ギアを入れ替えられるチャンスがあったりするようなプロセスを組んでいきたい。

○委員 スポーツ少年団のお話もしていただいた。本部長もおられるが、部活を限定することで、スポーツ少年団のときからその部活がないということになれば、その運動をしないうちに一生終わっていくのではないかとということが懸念される。例えば、野球部がない中学校の小学校だとすれば、もう野球部には行く価値がないと思うため、野球をする機会がないうちに、スポーツ少年団を終えるかもしれない。そうすればキャッチボールさえしないで一生過ごすかもしれないという懸念がある。スポーツ少年団に協力をお願いをされるということだが、過ごし方等、全体的な過程も併せて考え、進めていかなければならないのではないかと。底辺の広いスポーツ環境を作ることも必要だと思う。

○教育長 会長の言われる通りである。急に部活動ということはないと思っている。小学校の間にいろんなスポーツに少しずつチャレンジする機会を設けながら、その中から自分が得意なものを見つけていける環境になったらいいなと思っている。これについては、部活動だけではなく、スポーツ少年団や、体育協会、スポーツクラブの力をお借りして、いろんな改革と一緒に交じってもらいながら、子どもたちが自分の道を選んでいけるような環境を幼児か小学校くらいから作っていきたいと思っている。ご協力をお願いしたい。

○委員 学校の方から、この部活動の地域移行と拠点校化は有難いことだというお話をしていただいた。学校の方ではそのように思っているのだとすれば、方向として大事なことなのかなと思う。しかしながら、将来に向けた子どもたちの方向を考えたときに、大きな制度を変えていくことになれば、いろんな戸惑いが出てくると思う。いろんな意味での丁寧な方向づくりに向けた対応が必要だと思うので、さらに父兄の方を含め、地域の方、いろんな方に説明をしていただき、その方向づくりをするということをいろんな方にしっかりと知っていただくよう、改めてお願いしたい。

○事務局 先日、市P連の役員の皆様の会議があり、今まで私たちの情報発信だけでは保護者の方になかなかお届けできないということがある中で、市

P連独自でアンケート調査等をしていただいた。その結果も貴重な資料とさせていただきたいと思う。市P連だけではなく、会長もおっしゃられたように、地域と共にやっていることでもあるので、地域の方にも説明をさせていただきながら進めたいと思っている。

5 その他

とやま呉西圏域連携事業 金沢文化スポーツコミッション講演会の開催について事務局から説明した。

6 閉会挨拶

(赤池副会長)

長時間にわたりご協力いただきましてありがとうございました。これから考えていかなければならない大事なことがたくさんあったかと思います。冒頭に会長・副会長の互選ということで副会長に選んでいただきました。会長の足手まといにならないように取り組んでいきたいと思っています。体を動かす人の30代～50代の数が少ないということで、本当は体を動かしたいと思っているが、仕事や家事等が原因でなかなか体を動かせないという人が多いと思っています。その対応につきましても、これだけたくさんの方がおられるので、たくさんアイディアが出てくると思います。またいろいろと考えながら、この後皆さんと一緒に頑張っていきたいと思っています。どうもお疲れ様でした。ありがとうございました。

生涯学習スポーツ課長が閉会を宣言した。